



基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

第40回九州地区重症心身障害研究会を開催して 療育指導室長 金城安樹

3月10日(土)、「那覇市の男女共同参画センター」において、第40回九州地区重症心身障害研究会を開催しました。九州各県より参加施設は36施設、参加者数173名、発表演題は61題でした。特別講演では佐賀県の国立病院機構肥前精神医療センター療育指導科長の會田先生から「重症心身障害医療の中での行動障害治療」をテーマに講演を頂きました。研究発表では、医療、看護、療育、リハビリテーション、QOL、心理、福祉、生活支援、多職種連携と多岐にわたるセッションにおいて、医師や看護師、児童指導員、保育士、理学療法士、作業療法士、栄養士、療養介助職、介護福祉士、ケースワーカー等の多職種から発表が行われました。

沖縄県内の重症心身障害児者施設、沖縄療育園様、名護療育医療センター様、沖縄中部療育医療センター様、沖縄南部療育医療センター様との共催による沖縄県では初開催となる大会でした。例年と比べると、遠方である為か参加者数は半数程でしたが、無事に終える事が出来、事務局として一安心しております。

特別講演をお引き受け頂いた国立病院機構肥前精神医療センターの會田先生、各セッションの座長の皆様、研究発表者・参加者の皆様、協賛を頂いた企業の皆様、沖縄病院からのボランティアの皆様、会場にいるスタッフの皆様、大変ありがとうございました。

次期開催は来年の3月、福岡県において開催されます。今後も利用者の年齢や状態に応じた適切な日中活動が提供されるよう、多職種による多角的なアプローチにより支援の充実が図れればと考えます。

研究会を通して学ぶ貴重な機会が継続されますよう祈念します。



トピックス

行事・出来ごと

- 病棟等運替 進捗状況 本体工事：新病棟（第1期工事）完成 平成27年7月
- 整備の動き 雨水配水管盛替工事 完成 平成29年2月
- 新病棟（第2期工事） 完成予定 平成30年10月

● 地域医療連携室だより

当院には現在、「動く重症心身障がい病棟」が80床ございます。現在、同一敷地内に新病棟を建設中で、H30年度7月には新病棟へ引越す予定となっております。新病棟開設時には入所・ショートステイ用をあわせて100床増床し、90床でのスタート予定です。これまでに入所以外にも多数のショートステイのご相談をお受けしておりましたが、なかなか受け入れをすることができない状況が続いておりました。新病棟開棟後はショートステイ専用のベッドも設置予定となっておりますので、是非、ご相談いただけたらと思います。「動く重症心身障がい病棟」には担当の精神保健福祉士がおりますので、何か疑問な点やご不明な点がございましたら、お気軽に「地域医療連携室」まで、お気軽にお声かけ下さい。



空床状況
3月30日現在

精神科病棟
3床

認知症
15床

アルコール
3床

児童思春期ユニット
2床

※ 入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

院長

福治康秀(ふくじ やすひで)
1964年生まれ、那覇市出身、
首里高校卒。
1993年琉球大学医学部卒、
琉球大学医学部精神神経科入局。
95年那覇市立病院精神科、96年
琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、
2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。
日本病院・地域精神医学会理事。



診療科

- 一般精神科
- こども心療科
- 物忘れ外来
- アルコール依存症等外来

病床数 406床

- 精神科病棟 181床
- 認知症 50床
- アルコール 54床
- 児童思春期
- ユニット 4床
- 重症心身障がい 80床
- 医療観察法 37床



那覇市からのアクセス



●アクセス

路線バス/ 那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス
「7番名護東線」浜田バス停下車徒歩3分
目 動 車 / 那覇市から30分
沖縄自動車道金武インターから名護向け5分

NHO PRESS~国立病院機構通信~について

琉球病院は、国立病院機構(NHO: National Hospital Organization)という143の病院からなる国内最大級の病院ネットワークの病院です。
国立病院機構(NHO)という病院ネットワークが、どのようなグループでどのような活動をしているのかを紹介する「NHO PRESS~国立病院機構通信~」を発行しています。外来ロビーに設置していますので、ぜひご覧になってください。
なお、ホームページに最新号と過去のものを掲載していますので、そちらもぜひご覧になってください。「NHO PRESS」で検索してください。



お問い合わせ時間
8:30~17:15 (土・日・祝日以外)
TEL: 098-968-2133 (代)
内線: 231・234
地域医療連携室(直通)
TEL: 098-968-3550
FAX: 098-968-7370

治療抵抗性精神疾患への医療



クロザピンの治療状況

平成22年から治療抵抗性統合失調症の患者様に対してクロザピン(CLZ)治療を開始し、全症例は229例になりました。平成30年2月のCLZ導入は2例で、いずれも他の病院からのご紹介の患者様でした。CLZ治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離が必要な患者様も多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も少なくなり、隔離は解除できています。週に3回の専門外来も行っていますので、患者様のご紹介をお願いいたします。

m-ECT(修正型電気けいれん療法)の治療状況

当院では、m-ECT(修正型電気けいれん療法)による治療を行っております。平成30年2月の治療実績はありませんでした。

こども心療科

子どもの心の診療ネットワーク事業では、離島支援を行っています。去った2月に、当事業では初めて、久米島を訪問しました。

今回の訪問では、発達についての勉強会やケース検討を行ったり、役場や久米島病院訪問など、多くの関係機関との交流を持つことができました。勉強会には、保育・学校関係者の方が50人近くも参加していただくなど、この領域への関心の高さがうかがえました。

活用できる資源がほとんどなかったり、学校の先生も島外への異動が多いなど、離島ならではの課題も抱えながら、関係者の方々が熱心に関わっていらっしゃる事が伝わってきました。昨年末からは、島内の公立病院でも発達外来を始めたとのことで、今後ますます発達支援に関してのニーズが高まっていくと思われます。今後も、島内の支援者と連携しながら、支援体制の充実に向けて取り組んでいけたらと考えています。

認知症医療 ・もの忘れ予防教室終了について

琉球病院ではH28年度より「もの忘れ予防教室」の取り組みを開始してきました。

今後は、近隣の自治体及び地域へ移行することとなります。

1月からは、認知症予防のための教室を立ち上げたいと考えている自治体や地域の皆さんを対象とし、もの忘れ予防教室の参加者と研修受講者との合同体験型研修会を開催しました。当院がこれまで取り組んできた「もの忘れ予防教室」の運営方法やプログラムなどをお伝えし、地域にスムーズに実現可能な方法で移行でき、地域貢献が図れたと思います。H30年3月をもって「もの忘れ予防教室」を終了となりますが、今後とも御指導・御助言を宜しくお願い致します。

重症心身障がい医療

慣れない環境や新しい事に取り組む際は、誰にだって混乱してしまった経験があるのではないのでしょうか?病棟の利用者さんにも、生活のなかで同様の事が起きていると考えます。

いつ、どこで、誰が、何を、なぜ、どのように等明確に伝える事が大切です。また、それは理解力に対応したものでなければなりませんし、そのような適切な環境調整を行う事が支援する側には求められています。強度行動障害を示す場合、障害特性や環境要因等により適切な行動が獲得されにくい場合があります。人が違えばそれぞれ異なりますので、各々に工夫も必要になってきます。そして支援する側の統一した対応が重要となります。

アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では2月末現在、外来通院の患者様71名、入院中の患者様24名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。また、当院の外来での調査では、レグテクト内服を継続している患者様の方が、治療継続率が高いという結果も出ております。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

包括的地域精神医療

平成29年12月の訪問看護利用者数は、716件ありました。月別平均では、35件の訪問看護の展開となりました。訪問日は、固定の日時になっておりますが、訪問看護利用者様の都合により、利用者様と訪問日程の相談・調整を行い随時変更を行っております。

2月は、最も寒い時期となりインフルエンザが各地で流行の兆しが見られます。健康管理では、睡眠を十分にとり栄養面に留意し手洗いやうがいを行い、外出時や人混みの多い場所では、マスクの着用を行い感染予防に努めましょう。

臨床研究部活動状況

『影山任佐先生 特別講演会のご報告』

平成30年3月10(火)に当院主催・沖縄県弁護士会共催で郡山精神医療研究所顧問(東京工業大学名誉教授・昭和女子大学客員教授)影山任佐先生をお招きし、「酩酊犯罪 異常酩酊:研究小史、現状と課題、今後の展望」というテーマでご講演いただきました。ご講演では、「意識障害」が精神医学の学問的に記載されるようになった19世紀半ばから現在にまでいたる酩酊分類研究小史、本邦の酩酊犯罪研究、酩酊分類、異常酩酊研究の動向についてご説明いただきました。そして、700例を超える影山先生の豊富な鑑定例の中で酩酊犯罪の内訳(単純酩酊・複雑酩酊・病的酩酊)、事例を交えて酩酊の概念、異常酩酊・病的酩酊の病因・病態などについてわかりやすくご説明いただき、最後に鑑定人の独立性、中立性の重要性、鑑定専門医の司法鑑定の倫理性についてご教示いただきました。

